

# プロセス改善による高品質ITソリューションの提供に向けたCMMIレベル5達成への軌跡

藤原良一\* 中前雅之\*  
本間敏夫\* 遠藤和彦\*  
細谷和伸\*

Achievement of CMMI Maturity Level 5 for High Quality IT Solutions

Ryoichi Fujihara, Toshio Honma, Kazunobu Hosoya, Masayuki Nakamae, Kazuhiko Endo

## 要旨

ネットワークが進化し、社会の隅々までIT化が行き渡りつつあり、品質の高いITソリューションの提供がますます重要になってきている。三菱電機インフォメーションシステムズ(株) (MDIS)では、お客様の期待にこたえる高品質ITソリューションの提供を目指し、CMMI<sup>(注1)</sup> (Capability Maturity Model Integration)の最上位レベルであるレベル5を達成した。レベル5達成までの主な軌跡は以下のとおりである。

### (1) システム生産標準を基盤としたISO9001への準拠

商談から保守までのシステムインテグレーションのライフサイクル全般を対象に、システム生産標準SPRINGAM<sup>(注2)</sup>をベースに、ISO9001準拠の品質マネジメントシステム(QMS)を整備し、組織的なプロセスを活用する基盤を確立した。

### (2) CMMIレベル3達成

年々厳しくなるビジネスゴールの確実な達成をねらい、CMMIを導入してプロセス改善を推進する組織の確立や品質保証部門の強化などの改善を図った。上記(1)の基盤もあり、約1年という短期間でCMMIレベル3を達成した。

### (3) PMIS構築

プロジェクト支援情報システムPMIS( Project Management Information System)を構築し、プロジェクト活動の可視化、組織的プロセス資産の集約と提供、ソフトウェア生産支援の強化・拡張を図った。

### (4) CMMIレベル5達成

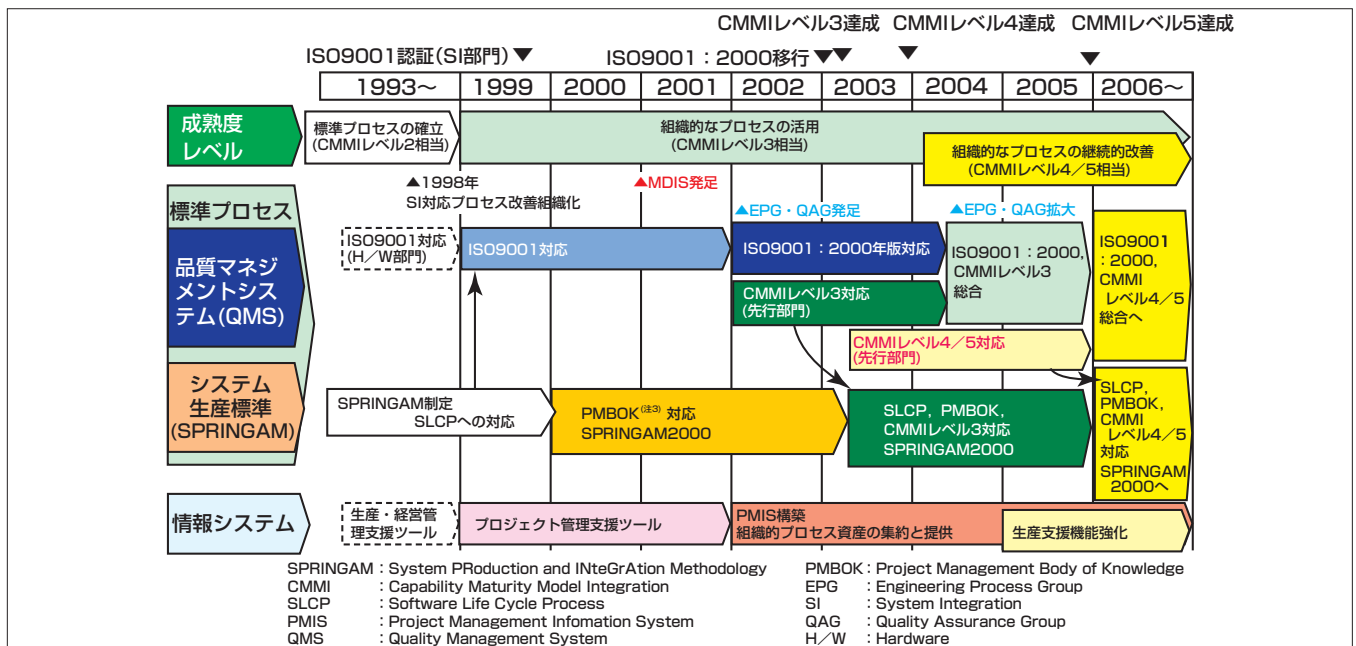
品質・生産性向上によるより高いビジネスゴールの達成をねらい、定量的プロジェクトマネジメントや新技術導入などの組織的なプロセス改善活動を継続することにより、CMMIの最も上位のレベルであるレベル5を先行部門で達成した。

上記プロセス改善活動SPI( Software Process Improvement)の結果、フィールドでの重大不具合の減少や品質コストの削減効果もたらされ、お客様のMDISへの信頼度も向上した。

(注1) CMMI, CMM及びIDEALは、米国Carnegie Mellon大学の米国における登録商標である。

(注2) SPRINGAMは、三菱電機(株)の登録商標である。

(注3) PMBOKは、米国Project Management Institute, Inc.の米国その他の国における登録商標である。



## MDISのプロセス改善ロードマップ

1993年に自社のノウハウを体系化し、システム生産標準SPRINGAMを整備した。1999年にSPRINGAMを基盤にISO9001を導入し品質保証を強化した。2002年から品質・生産性向上を目的にCMMIをモデルとしたSPI活動を開始した。一方、1996年に“生産・経営管理支援ツール”によるプロジェクト状況の可視化を図り、その後、“ワークフロー化し”プロジェクト管理支援ツールへ発展し、さらに、プロジェクトマネジメント支援にシステム開発支援を統合しPMISを構築して、プロジェクト支援及びプロセス改善のインフラ整備を推進している。

\*三菱電機インフォメーションシステムズ(株)